

医療・介護関係者を始めとする多職種や市民の方々からの在宅療養に関する相談に対応いたします。
看護師、医療ソーシャルワーカーが常駐しておりますので、お気軽に0874(おはなし)ください。

どんな時に
センターに行けば
いいの？



『通院が困難になったとき』
『入院治療が終わって家に帰るとき』
『独居の方・高齢者世帯の方で
医療・介護が必要になったとき』
などです。

●場 所／名鉄病院1号館4階
●受付時間／月曜～金曜
午前9時～午後5時
(祝日・年末年始を除く)
TEL:052-561-0874
FAX:052-561-0875

新任医師のご紹介



婦人科部長
西川 博

平成28年10月より婦人科部長として赴任しました。婦人科では思春期更年期、子宮筋腫から悪性腫瘍まで、すべての女性の健康維持向上につながるよう努めていきます。よろしくお願いたします。



整形外科
貝沼 慎悟 医長

みなさまに適切な診断および治療を提供できるよう地域に根ざした診療を心がけております。どうぞよろしくお願いたします。



救急部
多和田 哲郎 医師

皆様初めまして。救急部医師の多和田哲郎と申します。小児から高齢者まで、『心配呈し』から『心肺停止』まで、幅広く対応できる救急医でありたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



皮膚科
山東 優 医師

11月末より赴任となりました。皮膚科の山東優と申します。「さんどう」と読みます。まだまだ不慣れな事も多く、ご迷惑をおかけする事もあるかと思いますが、よろしくお願いたします。



研修医
大倉 風野

名鉄病院で研修できることを嬉しく思っております。早く皆さんのお役に立てる様に、また患者さんに身近に感じてもらえる医師を目指して日々の研修に励みたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



名鉄病院

〒451-8511 名古屋市西区栄生 2-26-11
URL <http://www.meitetsu-hospital.jp/>
TEL052-551-6121(代表)

診療科目

- 総合内科 ●循環器内科 ●消化器内科 ●神経内科 ●血液内科
- 内分泌・代謝内科 ●呼吸器内科 ●小児科 ●外科 ●整形外科
- 消化器外科 ●リハビリテーション科 ●脳神経外科 ●婦人科
- 皮膚科 ●泌尿器科 ●女性泌尿器科 ●耳鼻咽喉科 ●眼科
- 放射線科 ●腎臓内科 ●病理診断科 ●麻酔科

診療センター

- 予防接種センター ●健診センター ●ウロギネセンター
- 認知症疾患医療センター ●関節鏡・スポーツ整形外科センター
- 糖尿病センター ●内視鏡センター

専門外来 ※予約制(一部を除く)

- 禁煙外来 ●乳腺外来 ●インスリン導入外来
- スポーツ内科(他院からの紹介の方のみ) ●シルバークリニック
- 小児慢性疾患外来 ●乳児健診 ●肝臓外来
- ストーマ外来 ●フットケア外来 ●ペースメーカー外来
- 糖尿病眼合併症外来 ●ASO外来 ●糖尿病透析予防外来
- リウマチ外来 ●関節鏡外来 ●スポーツ外来
- 小児整形外来<月1回/不定期> ●脊椎外来 ほか



1号館前に名鉄病院駐車場を整備しました。
3号館横の名鉄栄生②とあわせ、こちらでもご利用ください。
なおロータリーへの駐車は、他の方への迷惑となりますのでご遠慮願います。
※3号館→1号館へはパノラマストリート③階で連絡しています。

病診連携・紹介状に関するお問い合わせは

地域医療連携室 TEL.052-586-5755 FAX.052-586-5756

本紙内容に関するお問い合わせは

事務部事務1課 TEL.052-551-6121(代) FAX.052-551-6711



名鉄病院 news letter

人に寄りそう 命と向き合う

平成29年 冬号



糖尿病センターのご紹介
関節鏡・スポーツ整形外科センターのご紹介

撮影:薬剤師 谷岡 洋造

新しい年がはじまりました。早いもので、新1号館がオープンし1年以上が過ぎました。ハードと共にソフト面では、当院の強みでもある救急部門において救急専門医師の赴任も実現し、この地域の救急医療に益々貢献出来ると考えています。また診療部門では、これからの低侵襲治療に対応できるよう手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入する等、一歩一歩ではありますが先を見据えた取り組みを進めています。新しい取り組みには当然不安を感じるがありますが、組織の活性化には不可欠なものと考えており、これからは積極的に進めていきたいと考えています。今年の新しい取り組みとしては、日本病院機能評価機構の審査を受審する予定で、現在準備しているところです。昨年は、研修指定病院の第3者評価を受審し、4年間の認定を受ける事が出来ました。この様な取り組みを行う事で、自分達の医療や体制を見つめ直す良いきっかけになっています。これからは良質な医療を提供しつづけるために職員が一丸となって取り組んでいく所存です。



名鉄病院 病院長
細井 延行

話は変わりますが、本年1月1日付で、外科の小林裕幸と泌尿器科の成島医師の2名が副院長に就任しました。日頃から皆様のお世話になっている医師たちですが、本人達は気分も新たに、やる気に満ち溢れています。きっと当院に新しい風を吹かせてくれると期待しています。残る2名の佐尾副院長、野田副院長と共に、これまで以上にご指導賜ればと存じます。本年もよろしくお願い申し上げます。

このたび、副院長を拝命した外科の小林裕幸です。平成10年に名鉄病院へ赴任して以来、肝・胆・脾の悪性腫瘍の手術を中心に消化器外科を担当してきました。振り返れば18年の歳月が経っており、これまでの皆様からのご指導に大変感謝する次第です。当時から地域連携が重要と考え、診療所の先生からの紹介患者を大切に、高難度手術においても可能な限り当院で対応することや、夜間、休日関係なく緊急手術にも対応してきました。手術以外でも化学療法、緩和医療にも力を入れ、患者さんに満足していただける医療を目指してきたことで、少しは地域医療に貢献できたのではないかと考えています。



名鉄病院 副院長
小林 裕幸

これからはさらに質の高い医療を目指し、高難度手術に対しても安全を担保しつつ腹腔鏡手術を増やして行く予定です。微力ではありますが地域医療と名鉄病院の発展のために努力をいたす所存です。

今後とも一層のご指導、ご援助を賜りますようお願い申し上げます。

この1月から副院長を拝命した成島雅博です。日頃より、病診連携の先生方には、ご指導ご鞭撻を賜り厚く御礼申し上げます。これまで、泌尿器科部長、ウロギネセンター長として、迅速かつ質の高い医療を提供することに努力してまいりました。これからは副院長として、患者さんや先生方に更に満足いただける質の高い医療を提供するとともに、患者さん、先生方と名鉄病院との強い絆の構築にも力を注いでいく所存です。



名鉄病院 副院長
成島 雅博

今後ともよろしくお願い申し上げます。



糖尿病センターのご紹介

糖尿病は、患者さん個別に様々な合併症(失明、透析、神経障害、動脈硬化など)を発症することから、「オーダメイドの糖尿病治療」が必要になってきます。当センターでは「糖尿病透析予防外来」、「フットケア外来」などの特殊外来や「糖尿病教室」などを併設し、医師はじめ多職種の専門スタッフが連携することで、糖尿病の診療・治療にあたっています。

また、高齢の糖尿病患者さんにおいては認知症を併発される方も増加していることから、当院認知症センターと協力し、高齢者糖尿病患者さんへの支援などにも積極的に取り組んでいます。

名鉄病院糖尿病センターは、糖尿病患者さんと地域の先生方のお役割にたてるように、より一層の努力をしてみたいです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

名鉄病院糖尿病センター 世界糖尿病デーイベント 来て、見て、ふれて 糖尿病を知ろう!



world diabetes day
14 November

11月14日は「世界糖尿病デー」に指定され、名古屋城もブルーにライトアップされるなど、世界各地で糖尿病の啓蒙活動が推進される日です。

名鉄病院糖尿病センターでは、糖尿病をより多くの方に知ってもらえるよう、11月13日に名鉄百貨店7F わくわくサロンにて、糖尿病デーイベント「来て、見て、ふれて 糖尿病を知ろう!」を開催しました。参加者200名を超える大盛況のイベントとなりました。

参加者の皆さんは、「ロコモティブシンドローム:通称ロコモ」の運動機能結果に一喜一憂したり、食事の説明やフットケアについて熱心に耳を傾けていました。

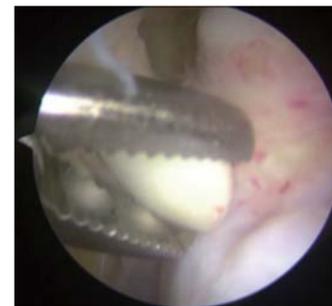
糖尿病は適切な治療(投薬や食事、運動療法)により、病状の改善を図れる病気です。当センターでは、今後もこのようなイベントなどを通じて、多くの皆さんに糖尿病を知ってもらえるような活動を続けていきたいと考えています。



関節鏡・スポーツ整形外科センターのご紹介

関節鏡・スポーツ整形外科センターではプロスポーツ選手から一般の方まで幅広く診療しています。リハビリ、薬、注射などで治らない関節の痛み・硬さ・引っかかり感、スポーツによる怪我や疲労骨折、慢性障害などの治療を行っています。

治療は原則として可能な限り手術を避け、理学療法や注射、投薬による治療を優先しています。手術が必要な場合には主に関節鏡(内視鏡)手術を行っており、肩、膝はもちろん肘、足の関節鏡手術も行っています。切開手術と比べて傷が小さく、痛みが少なく、早期の競技・社会復帰が可能です。肩の脱臼癖、肩腱板断裂、野球肩、野球肘、肘や足首の関節ネズミ、膝半月板損傷など多くの疾患を関節鏡手術で治療しています。



関節鏡で関節ネズミを摘出しているところ



関節鏡は鉛筆より細く直径約4mmです



関節鏡・スポーツ整形外科センターについて



Q スポーツ選手しか診察していないのでしょうか?

A そんなことはありません。肩腱板断裂のようにご高齢の方の診療も行っています。

Q 関節鏡とは?

A 内視鏡の一種です。5mmから1cm程の切開から挿入し関節の中を拡大してモニターで見ることができます。拡大されているため繊細な手術が可能となります。手術によっては日帰り手術も可能です。



Q 術後の痛みはどうでしょうか?

A 手術後の痛みは切開手術と比べると軽くて済みますが、全く痛くないわけではありません。手術室で術後まで鎮痛効果が続く神経ブロックを行うなど、できるだけ痛みが軽減できるように努めています。

Q スポーツ障害の治療はどのように行っているのでしょうか?

A スポーツ障害では体の使い方、フォーム、体の硬さ、筋力のバランス、偏平足のような身体的特徴など、痛い部分とは別の所に本当の原因があることが多く、痛い部分だけ見ては適切な治療はできません。根本的な原因を究明し、改善することで障害の治療・再発予防となるだけでなく競技パフォーマンスの向上にも役立ちます。このため適切な理学療法や装具療法なども重要な治療手段となります。どうしても必要な時にのみ手術を行います。

